



勉強する子ども きたえる子ども やさしい子ども

かわひがし

都城市立川東小学校 学校だより



令和7年度第12号

令和8年2月27日

文責 校長

本校の木 やまもも

今月の学校の様子

3学期がスタートして2ヶ月が経ちました。校長室にいと、子ども達が運動場で元気に運動したり、遊んだりしたりする声が聞こえてきます。そのような声を聞くと、とてもうれしく思います。



2回目の学校保健委員会では、都城市教育委員会の方に来ていただき、スマホとの上手な付き合い方についてお話をいただきました。



きりしま支援学校のお友達との2回目の交流学習が行われました。ポッチャというゲームを楽しみました。ゲームの途中で話をする姿が微笑ましかったです。



最近、学校では「児童が自分で学びを選択する」学習が多く取り入れられています。個人で考えるのか、友達と話し合うのか、社会を生き抜くために必要な主体性を授業の中で育てています。

2月14日には、祝吉地区青少年の声を聞く会が開かれました。本校から、6年生のはなりさんと想乃さんが、これまでの学校生活での経験や感じたことをもとに、「考えて行動することの大切さ」「自分と相手の『普通』の違いを理解し、思いやりをもって接することの大切さ」を発表してくれました。また、次の皆さんが表彰されました。おめでとうございます。

善行表彰…彪桜さん、喜一さん、陽莉さん、心奈さん（いずれも6年）
標語募集入賞…希さん（1年）、成輝さん（2年）



意見発表の様子です。

校長のつぶやき1 「読書のススメ」

私は読書が好きです。「好きなジャンルは？」と聞かれると「どんなジャンルでも読むけど、強いて言えば、タイトル買い（タイトルを見て興味を惹かれる本を買うこと）かな？」と答えます。家の本棚には、次のようなタイトルの本があります。

「なぜ、八幡神社が日本で一番多いのか」「『叱らない』が子どもを苦しめる」
「ひとりぼっちを笑うな」「反省させると犯罪者になります」「少年と犬」
「犬が教えてくれたこと」 など…
(作者名・出版社は省略)

本好きの私が、最近ハマっているのが「成瀬は天下を取りに行く」（宮島未奈著 新潮社）という青春小説です。主人公である中学2年生の成瀬あかりは幼少の時から天才と呼ばれた女の子で、物語は、成瀬と関わる周りの人目線で進んでいきます。いわゆる「変わった子」（原作の表記そのまま）扱いをされている成瀬ですが、彼女の「生き方は不器用だけれど、自分が正しいと思ったことに突き進む意思の強さ」や「ぶっきらぼうだけれど、人を大切にできる優しさ」はとても素敵で、中年のおじさんである私に「こういう生き方をしてみたいなあ」と思わせてくれます。この成瀬シリーズは、あと2冊あるそうです。時間があつたら、読んでみたいと思っています。

私は「新しい発見ができること」が読書のよさだと思います。スマホから得られる情報も悪くないですが、たまには紙の本を手にとって、本と対話するのもいいと思いますよ。



校長のつぶやき2 「ありがとうございます。」

先月の「校長のつぶやき～自分達の過ごす場所」に対し、感想をいただきました。とてもうれしく読ませていただきました。書かれている感想の中に「親も『当たり前』と思わず、『ありがとう』の感謝を子どもに伝える」という言葉があり、私は心が温かくなりました。そのような保護者の方の姿勢は必ず子どもにも伝わりますし、きっと、思いやりのある人に育つのだろうなあと思いました。ご家庭でそのような姿勢で子どもを育ててくださっていることに、校長としても感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

3月の主な行事

25日 卒業式
26日 終業の日
※離任式を予定しています。詳細が決まりましたら、Sigfy等でご連絡します。



←川東小ホームページ
学校の様子を随時更新していきます。ぜひご覧ください。



←学校通信の感想フォームです。よろしければ、3月19日までに入力してください。